

# 令和2年度 学校経営報告

東京都立足立東高等学校  
校長 平田 誠一

## 1 総 評

新型コロナウイルス感染症の拡大にともない二度に渡る緊急事態宣言が発令された。今年度も「エンカレッジスクールの王道」を具現化すべく学校経営計画を策定したが、自宅学習・時差登校・分散登校などが実施され、学校行事等は軒並み中止せざるを得なかったため、年度の途中で大きく軌道修正を余儀なくされた。

まず、今年度の進路決定率は85%であり、90%台を維持することができなかった。就職活動や進学活動の時期も例年より出遅れ、不安な生徒を就職ナビゲーターやYSWなど外部人材を活用して、面談を重ねて支援してきた結果であるが、来年度は具体策を立てて改善する。

次に、生活指導面においては、特別指導件数が18件33名と昨年度より減少しているが、10件以内という目標は達成できなかった。継続課題であるSNSに関わる問題行動や登下校時の自転車事故についても、学校全体として生活指導の徹底を進めていく必要がある。部活動は全体の加入率は52%程度であり、運動部、文化部ともに加入率を増やすとともに活動の活性化が課題である。また、健康・環境面においては、分掌部会や教育相談委員会を定期的に関き、保健、美化、教育相談、施設の充実に取り組み、その中でも特に保健衛生面の管理を徹底した。

以上のように、年間を通じてコロナ禍による様々な制約があったが、教職員一人一人が生徒のために知恵を出し合い、一致団結して、この難局を乗り切ることができたことに感謝したい。

## 2 今年度の取組目標等に関する自己評価

### (1) 学習指導 【A】

#### ※ 「学びの基盤」プロジェクトを活用した基礎基本の定着

- ・新型コロナウイルス感染症予防のため、対話的な学習活動が濼減されるなど様々な制約があったが、学校評価アンケートにおいて、「わかる授業、楽しい授業」や「少人数授業・習熟度別授業」に満足している生徒は、昨年同様約80%である。
- ・ICT支援員を有効に活用し、ICTを活用した授業、オンライン学習への取り組みが全校的に定着してきた。
- ・新型コロナウイルス感染拡大にともない中止になった通所研修も多かったが、OJTによる研究授業や教員相互の授業参観等を推進して、学力向上や授業力向上に努めた。また、教育庁指導部や教職員研修センターと連携して、「学びの基盤」プロジェクトを活用した研究授業を実施し、その成果を全都に向けて発信した。
- ・本校の特色ある教育活動である体験学習については、実践内容をHPで効果的に紹介するなど、次年度に向けてさらに取り組みを充実させる。

### (2) 進路指導 【B】

#### ※ キャリアガイダンスの充実と進路実現に向けた支援

- ・キャリアガイダンスを活用し、早期からの進路指導に取り組んでいる。
- ・教育庁地域教育支援部や足立区産業経済部就労支援課との連携のもと、YSW や就職ナビゲーターによる進路相談や就職指導を行い、粘り強い指導を続けたが、「進路決定率90%」は達成できなかった。背景として、コロナ禍により、保護者も含めて進路活動を見合わせてしまった生徒が一定数いたことも否定できない。

- ・今年度の卒業生 153 名中、大学・短大 13 名、専門学校 56 名、就職 60 名(学校斡旋 55 名、公務員 1 名、縁故・自営 4 名)、未定 24 名(就活中等含む)という状況である。(進路決定率 85.6%)

### (3) 生活指導 【B】

#### ※ 地域に認められ、社会生活の基礎となる基本的な生活習慣の確立

- ・頭髪、服装については、全教員の指導が徹底し、生徒の状況は落ち着いている。朝の登校指導での挨拶指導も定着している。
- ・年間を通じて時差登校を実施したにもかかわらず、遅刻については大きく減少していないので、引き続き粘り強く指導する。チャイム着席については問題なく実施できている。
- ・「特別指導の件数 10 件以下」の目標は達成できなかった。近年の課題である SNS の適切な利用について指導してきたが、まだ十分とは言えず、引き続き指導していく。
- ・「学期皆勤賞」を奨励した結果、3 年間皆勤 9 名、1 年間皆勤者 2 年 23 名 1 年 24 名であった。

### (4) 特別活動 【B】

#### ※ 自主・自立の精神と帰属意識の涵養

- ・コロナ禍により、修学旅行・文化祭・体育祭・合唱コンクール・マラソン大会など主な行事が軒並み中止となった。代替案として、スポーツ大会や文化部活動発表会など学年ごとに実施できる行事を工夫して行った。
- ・生徒会役員は、朝の登校指導・挨拶指導を積極的に行った。
- ・新型コロナウイルス感染症防止のため様々な制約がある中で、保健衛生面に留意しながら部活動を行った。

### (5) 健康指導 【A】

#### ※ 健康的な生活習慣と豊かな心の育成

- ・特別な支援を必要とする生徒の指導に関して、専門医や臨床発達心理士を招いて 2 回校内研修会を開き、指導法などについて学ぶとともに共通理解の下に適切な対応や指導を行なっている。
- ・教育相談委員会を中心としてスクールカウンセラーや臨床発達心理士と連携して、保護者や本人の理解を得た個別指導に取り組み、段階的な指導を行なった。
- ・健康環境部を中心に、組織的に保健指導・健康指導を行い、生徒の健康被害を最小限に抑えることができた。

## 3 翌年度以降の課題と改善策

### (1) 基礎学力を確実に定着させる

#### 〔現状〕

- ・エンカレッジスクールの使命である「学び直し」「基礎学力の定着」「学力向上」の観点から 1 学年の習熟度別授業、30 分授業(国語・数学・外国語)や少人数指導、スタディガイドは一定の成果を得ている。
- ・コロナ禍においても ICT を活用した授業やオンライン授業を推進し、生徒の学びを止めない教育活動を実践した。
- ・各種検定試験において、教員が補習を充実させ、上位の級の合格者が増えた。(漢字検定 2 級・数学検定 2 級など)

#### 〔課題〕

- ・学力の差が著しく、各学習グループ内においても理解度に差がある。
- ・今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、授業の中で主体的・対話的で深い学びや、生徒同士による教え合いなどを盛り込みにくい状況があり、個別演習の時間が多かった。

#### 〔改善策〕

- ・コロナ禍により来年度から仕切り直しされた「学びの基盤」プロジェクトを活用し、生徒一人一人の学力に応じた課題を設定し、つまずきの克服に努めさせる。
- ・「基礎基本学習 個別支援事業」を活用し、放課後等の個別指導学習等を定着させる。
- ・研修などを活用し、常に授業を検証して工夫・改善に努めていく。(教科会の定期的な実施、研究授業の活性化、校内研修会の実施)

#### (2) 中途退学者を 20 人以下に減らす。

##### 〔現状〕

- ・今年度は 13 人が中途退学したが、人数だけを見れば減少傾向は続いている。その一因として、新型コロナウイルス感染症予防のため、出席停止や公欠等の規準が緩くなり、欠時オーバーによる未履修は減少したことも考えられる。成績不良の理由の大半は、生徒本人の怠学によるものである。

##### 〔課題〕

- ・エンカレッジスクールの趣旨を十分理解していない生徒が入学してくる。
- ・家庭からの協力が得られにくい。

##### 〔改善策〕

- ・教員間や担任と保護者の定期的な情報交換や情報共有の場を設定するなどして、早期より対応し、自覚を促して改善させていく。
- ・問題行動などの背景を探るために、SC や YSW などの外部人材を活用して、段階的組織的に面談を実施し、問題の未然防止に努める。
- ・キャリア教育を通して自己の将来を考えさせ、進級や卒業に向けて頑張る意識と意欲や自己肯定感を高めていく。
- ・生徒募集活動を充実させ、「エンカレッジスクールで学びたい」という目的意識の高い生徒の発掘と中学校への発信に努める。

#### (3) 関係機関等との連携を強化して進路決定率を 90%以上とする。

##### 〔現状〕

- ・今年度の進路決定率は 85.6%と、目標を達成することができなかった。

##### 〔課題〕

- ・新型コロナウイルス対策のため、進路活動の開始時期が遅れた。
- ・就労への不安感が大きく、家庭からの協力が得られにくい。
- ・自己理解に乏しく、進路意識(将来像)が希薄な生徒も散見される。

##### 〔改善策〕

- ・就職希望者への指導を 1 年次から徹底して行うために、キャリアガイダンスの年間授業計画を抜本的に見直す。
- ・足立区企業経営支援課、就職ナビゲーターや若者サポートセンター、などとの関係を強化して就労に対する生徒の意識を高めていく。
- ・「ライフスキルプログラム」「ワークチャレンジプログラム」の授業を通してビジネスマナーやスキルを身に付けさせる。
- ・進学希望者対象の進路指導や補習の組織的な体制を整える。

#### (4) 指導を徹底して生徒の自覚を促し、特別指導 10 件以下とする。

##### 〔現状〕

- ・特別指導は 18 件で昨年度より 7 件減少したが、目標の達成には至らなかった。
- ・登下校時の自転車のマナーや事故、SNS に伴う人間関係のトラブル、喫煙行為が目立った。

##### 〔課題〕

- ・今年度はコロナ禍により、生徒同士の人間関係を構築できるような環境が乏しかった。

- ・ネットトラブルなど、いじめにつながる生徒間の人間関係の在り方や社会のルール、モラルが十分に身に付いていない。(規範意識の醸成)
- ・特別指導を受けて、その場は反省しても続かず、同じことを繰り返す生徒が一部いる。

#### 〔改善策〕

- ・セーフティ教室等を活用して校内における盗難や喫煙に関する指導を強化し、生徒が信頼し合って安心して安全な学校づくりに重点を置いた指導を徹底する。
- ・問題行動を未然防止するために、面談週間以外にも面談の機会を設定し、生徒が相談しやすい関係性を構築する。担任以外に養護教諭やSC、YSWとの面談も必要に応じて設定する。
- ・態度教育の徹底を図り、挨拶、返事、ことば遣い、頭髪、服装、態度等を意識的に良好なものとする規範意識を高める指導に努める。
- ・学校行事や特別活動などを通して、生徒の帰属意識や責任感、自己肯定感の向上に努める。

#### (5) 入試応募平均倍率 2.0 倍以上を維持する。

##### 〔現状〕

- ・制限の多い環境の中で、できるかぎりの広報活動を実施したが、今年度は二次募集を実施しても、受検人員が定員に達しなかった。

##### 〔課題〕

- ・対面で説明会が実施できない場合の広報活動に慣れていなかった。
- ・ホームページの更新回数は目標の 200 回を上回ったが、情報発信力が弱く、PR 不足だった。

##### 〔改善策〕

- ・ホームページに学校での日常的な教育活動をタイムリーにアップし、保護者や受検生のニーズにこたえる。
- ・文化、スポーツ推薦を奨励し、特技を生かした学ぶ意欲の高い生徒を募集する。
- ・学校説明会だけでなく、授業公開や部活動見学会など、本校を知ってもらう企画を増やす。
- ・早い時期に募集対策を開始し、中学校や塾などへの管理職による積極的な広報活動を強化する。

#### 4 数値から見た教育の成果

- (1) 今年度の中途退学者は13名であり、昨年度の19名から、減少し「20名以下」という数値目標を達成した。退学生徒の共通要因は生活習慣の乱れと学習意欲の欠如、家庭環境であるが、学習習慣が身につけていないことも大きな要因である。また、中学校からの不登校傾向が改善できない生徒も一定数いる。昨年同様、自己の将来を考えての就職や転学などの進路変更も目立った。生徒にとって魅力ある学校づくりに努めて帰属意識を高め、本校で学ぶ目的を明確にさせて中途退学の防止に進めていく必要がある。

(人/%)

年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	2
中退者	30	16	18	22	26	22	27	28	12	16	19	13
中退率	5.5	2.9	3.3	3.9	4.6	4.0	5.0	5.2	2.3	2.9	3.6	2.6
1年生	20	11	7	10	15	24	11	12	2	7	10	5
在籍数 (学級)	543 (15)	548 (15)	550 (15)	560 (15)	565 (15)	565 (15)	528 (15)	527 (15)	529 (15)	560 (15)	527 (15)	488 (14)

- (2) 卒業後の進路決定率の変化

今年度の進路決定率は昨年度と比べ低下した。新型コロナウイルス感染症拡大にともなう社会情勢の波を受け、就職に関しては、最初の選考でつまずいた生徒は、なかなか気持ちを切り替えることができず、指導しても就職活動をあきらめてしまった生徒が一定数いたことが、進路決定率低下の大きな要因である。新型コロナウイルス感染症の影響は、来年度も続くと考えられるので、生徒の心のケアを強化して早い時期からの進路活動を推進する必要がある。

(%)

年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	2
進路決定率	70.0	81.7	70.6	79.3	81.4	81.0	87.2	86.8	90.2	92.4	91.3	85.6
大学・短大	7.8	13.3	9.9	12.4	6.4	6.4	11.6	7.0	4.9	5.3	9.9	9.8
専門学校	37.3	38.5	33.7	42.0	34.3	32.4	28.7	35.0	33.7	18.7	33.2	36.6
就職	24.8	34.4	27.0	25.0	40.7	42.4	47.0	45.0	51.5	68.4	48.2	39.2
未定	30.1	13.8	29.4	20.6	18.6	19.1	12.8	12.6	9.8	7.6	9.8	14.4